

平成 28 年 2 月 15 日 (月) 10:00~12:00 八重原公民館レクリエーションホール

平成 28 年度家庭教育学級合同講演会

「子どもの個性を引き出し、地域で育む～音楽療法を通しての子どもの見方～」

音楽は人を幸せにする！

講師：笠嶋道子さん（日本音楽療法学会認定音楽療法士）

## 1. 自己紹介

馬来田で生まれ小学生のとき先生に音楽の才能を認められてから音楽に取り組んできた。君津市で音楽療法の話をするのは今回が初めて。音楽療法そのものもあまり知られていないが、ここ最近では NHK の音楽療法の特番が 2 件続けて放映された（私が出ていたわけではない）。

音楽療法は治療（エビデンス）で、結果を出さないといけない。音楽で笑顔が出るということは証拠になりにくい。そういうことでまだまだ発展途上の分野にある。

著書である『そのままのあなたでいい』、このタイトルは本庄たかしくん（自閉症：食事はネギしか食べない）との関りの中で、その人を引き出すときの考え方から用いている。本庄くんは、はじめは呼び捨てだったが関りの中で先生と認められ呼ばれるまでになった。

本人に絵を描かせたところ感性豊かな絵を描いた。お母さんは「せっかく自閉で生まれたのだから」という発想で、自閉症をマイナスに捉えていなかった。その後、絵の才能が認められ絵の先生にいたが、学校では絵を 1 枚も描かなかった。現在は海外に出したり、個展も開いていて、1 号 1 万円の価値がついている画家になって活躍している。今日展示している絵も本庄くんが描いた作品。来月（3 月）には八千代で個展が開かれるのでぜひ足を運んでもらいたい。



\* 映像上映：24 時間テレビ「嵐の二宮和也と聴覚障害女性との共演ビデオ」（2004/8/25）  
（聴覚障害女性の歌唱指導に携わった）

\* 資料紹介：故吉川武彦先生（きっかわ・たけひこ）の追悼文  
ワイワイコンサート：障害のある人が 200 人近く。八重原中学生も参加。  
東京新聞記事

## 2. その人らしさのお手伝い

### （1）吉川武彦の理論より心の発達・心のしくみ

自分らしさ（自我）が大事ということはみなさん分かっていると思う。しかしそれをどこで感じるかが問題となる。いわゆる「知」（物事への理解）・「情」（思いやり・感性）・「意」（意思・欲動）というものは教育することができる。しかし「自分らしさ」というものは外

から与えられるものではない。ではどう育てるか、このことは大変難しい。講演趣旨の説明で「education」とは「引き出す」という意味であるとあったが、これもうまく引き出さないといけない。

子育てにおいて考えると、価値観というものが親の側にある。親が手を引かなければいけない、自分と同じ道を歩まないといけないと思いついでしまいやすい。これは、母親のお腹から生まれるので母親の価値観と子どもが合っているものだと当然思ってしまうことからきている。

しかし、実際には自分の思い通りに子どもはならない、と子育てを通して私は思い知らされた。

子どもがどういう風になろうともその子が選んだのであれば仕方がないというのが心理学の先生からされた話で、子どもが自我に目覚めて自己主張しはじめてくると親は諦めないといけない。

自閉症は天才なので親には子どもの足を引っ張らないようにとお願いしている。親は自分が思っているようになってもらいたいと考えるが、それは自分以上のものを想定してはいない。私自身、息子が骨髄バンクに登録するときに自分が経験していないことだからどうしても反対してしまった。その後、息子は骨髄移植をしたが、褒めてくれたのは看護師さんだけで、これは本当のボランティア。このように自分が経験したなかでのものをいうのには限りがある。

このように、自我（自分らしさ）が知情意の三角錐の底辺にあるという吉川先生の理論をまずは押さえてもらいたい。

私が勤めた教護院とは中高生が警察から回ってきて保護する場所。そこに勤務したときに子どもに音楽を教える担当をした。そこでは子どもから希望の曲を聞いて音楽をしていた。何ヶ月かすると子どもの方から音楽を教えてくださいという話をするようになった。これはその人自身の自我に触れたということ。

## （2）アルト・シュラー「同質の原理」

同質の原理とは、精神科医アルト・シュラーが 1950 年代に唱えたもの。うつ病患者を対象にしたものが精神科医で、うつ病患者を元気にするにはどうしたらいいかを研究していたなかで見出した原理。うつ病の場合、ゴールは自殺となるので注意が必要となる。

同質の原理は、簡単にいえばその人に沿ってあげること。学校では同質の原理を取り入れるのはなかなか難しい（本人の希望の曲を行うこと）。うつ病患者に頑張れと言っただけではいけないことがまさにこの原理。施設にいる高齢者も怒っている人が多い。職員はどうしても起こらないようにしようとするが音楽療法ではなるべく怒らせるようにする。そのため、太鼓を叩いてもらいたいという行為を援助してあげる。ドラマ「金八先生」が荒れ狂った生徒と同じように接する場面がまさに同質の原理。

この同質の原理は音楽療法士であればみんな使っている技法である。

## （3）ヘンク・スメイスターズの補償の原理

補償の原理とは止めさせないで見てあげること。太鼓を叩いているとしばらくすれば落ち着いていく。音楽の場合にはどんなにやっても薬と違って副作用がなく音楽療法は音楽

を使った心理療法である。

乱暴だった人が太鼓を叩いて落ち着くことは、その本人よりも家族が嬉しくなる。本当は荒れている学校の教師を行いたかったがこればかりは音楽療法を実証できなかった。教護院では、子どもたちと仲良くなることができたが、教護院の場合にはそれでは社会に出すことは許されない。そこでは礼儀や謝罪ができるようにならないといけないので同質の原理まではできたが補償の原理までできなかった。

選ぶ音楽を見れば相手の心理状況を見ることができる。同質の原理で子どもを捉え、補償の原理（その人を支えていく）を使っていくことをおすすめしたい。

音楽を心理学的に分析した本として『心理療法としての音楽療法』を紹介したい。また、音楽療法に興味のある人には著書「音楽療法」を紹介したい。

### 3. 音楽体験

- ・ 音楽に合わせて大人も子どもも一緒に手をつないで会場内を回る
- ・ ハンドベル演奏体験
- ・ 桜の曲と山口先生・細野さんの合図に合わせてハンドベルを演奏
- ・ エーデルワイス合奏
- ・ 合唱：朧月夜



音楽療法のゴールは歌を歌うこと。人の一番の障害はコミュニケーション能力がないことなので、おしゃべりするように持っていくことが治療となる。

子どもを遊ばせるには遊ばせるテンポがある。子どもの動くテンポに合わせたリズムを用いることが大事。

### 4. 音楽教育と音楽療法の違い

教育とセラピーの違いについて話をしたい。セラピー (therapy) の語源は「その人に沿うこと」。学校で音楽の時間があつたと思うが中には音楽の時間が嫌いな人もいる。一般的に教えるということが教育になる。教えるということは100点(正解)が先生の側にある。さらに言えば、文部科学省の方でこういう風になってもらいたいというものがある(学習指導要領)。

学校音楽教育というものに対する苦手意識は、その人が欲しくないものもしなければならぬところからきている。評価が先生にあるものが教育だが、音楽療法の場合には、教師50点、クライアント50点となる。相手がどうなるのか計算しながら提供しなければならない。音楽療法には能動的音楽療法(やる音楽)、受動的音楽療法(聞く音楽)の2つがあるが、障害のある人には受動的音楽療法は無理。

音楽が苦手となるのは実は教師の側に問題がある。先ほど話した「同質の原理」と「補償の原理」のように、何が分からないからどう教えていくかということを中心にきちん見極めないといけない。

音楽療法の場合、教育のレベルまで達しさせるまでにするのが目標となる。目の前の子ども達を見ていると子どもによっていろんな表現方法があることがわかる。それを見極めて同質の原理なのか補償の原理なのかを生かしていくことが大切。

木更津高専では第九をドイツ語で歌うことと日本の民謡「斎太郎節」（さいたら節）を唄うようにしている。楽器もトーンチャイム、バンド、ピアノ（三ヶ月でバイエルン五十番までやってしまう）の中から選ぶがこれらはすべてこうしなさいと言わないので生徒は「憩いの時間」と呼んでいる。

このように、教育と療法の違いを踏まえた上で、自分の子どもに教育を施したほうがいいのか、合わせたほうがいいのかは見極めないといけない。音楽療法では1つ1つの行動を記録していきながらセッションを組み立てていっている。

## 5. 糸賀一雄「この子等を世の光に」とは

糸賀一雄先生（日本の障害者福祉を切り開いた第一人者）は琵琶湖のほとりに重症障害児福祉施設（近江学園）をつくった。そこでの実践記録である著書において、「この子らを世の光に」と書かれている。

「この子らに世の光を」という言葉の場合、障害のある人々には光を“与えてあげる”べきであり社会がそれを努力すべきという考え方になる。一方、「この子らを世の光に」というのは“もらう”ということの意味している。

障害児の母親は綺麗な人が多い。これは障害児には創意工夫がないと育てていけないからで、常に考えて、緊張感をもって暮らしていることからだろう。緊張感と慈愛が人間を綺麗にするのだと思う。

私が主催しているワイワイコンサートをみんな目標にしている。障害のある人はかわいそうだから何かサービスをしてあげないと、と思う人が一般的に多いが、このコンサートに来た人は、障害があっても人としてきちんと喜びを表現することができるということに気付かされると思う。障害があっても人間として豊かに生きることができるということを経験することができる。

## 感想・質問

- ・ 「同質の原理」とはテンポであるという話だったが人によって違うのか  
→音楽でいうと四分音符 120。子どもが疲れている場合にはテンポは遅くなる。ラジオ体操は四分音符 60。GKN はリズムに対して敏感になる活動をしている。
- ・ 「自閉症の子は天才なんだから親の価値観で足を引っ張ってはいけない」という言葉にあらためて考えさせられた。
- ・ 子どもを自分の価値観で捉えてしまっているなので考えを改めたい。
- ・ 子どもにピアノを習わせているがどうしても口出ししてしまう  
→親は口出しをしないでお金だけ出すことが大事。ほめてあげないと音楽は好きにならない。才能があって音楽大学に進んでも自分の欠点ばかりが見えてくるもの。それよりも褒めてあげて、一生ものの音楽にしてあげたほうがいいと思う。